

0553

第一  
第七百

軍事  
秘書

陸軍省  
第四

富集法第一三三號

第二十五軍軍律會議開設並ニ第二十五

軍軍律同審判規則制定ノ件報告

昭和十六年十二月九日 第二十五軍司令官 山下

陸軍大臣 東條 英機 殿

昭和十六年十二月十九日 當軍ニ第二十五軍軍律

會議ヲ開設シ同日第二十五軍軍律同審

判規則ヲ制定シタルニ付右ニ關スル諸達

等相 添へ報告ス

陸軍省  
17.1.18  
官  
臣

陸軍省  
17.1.20  
文書第294號  
法務局

陸軍省  
戰務局

陸軍省  
17.1.18  
軍  
謀

陸軍省  
第二十五軍  
司令官  
山下

附録

寫

軍事秘密

富集法第三六號

第二十五軍軍律制定ノ件達

隸下及指揮下一般

第二十五軍軍律左ノ通定ム

昭和十六年十二月十九日

第二十五軍司令官山下奉文

時津

17.11.19

第三十五軍軍律

第一條 本軍律ハ第三十五軍ノ作戰地域内ニ在ル

日本臣民以外ノ者ニモ適用ス

第二條 日本軍ニ對シ左ニ記載シタル行為ヲ爲

シタル者ハ軍罰ニ處ス

一 叛逆行為

二 間諜行為

三 前二號ノ外軍事行動ヲ妨害シ又ハ

安寧ヲ害スル行為

第三條 前條ノ行為ヲ教唆幫助豫備陰謀又ハ

未遂ハ之ヲ罰ス但シ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ

減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四條前二條ノ行爲ヲ爲シ未タ日本軍ニ發覺セサル前ニ自首シタル者ハ其ノ罰ヲ減輕又ハ免除ス

第五條軍罰ノ種類左ノ如シ

- 一 死
  - 二 監禁
  - 三 追放
  - 四 過料
  - 五 沒取
- 軍罰ノ輕重ハ前項記載ノ順序ニ依ル

第六條 死ハ銃殺ス

第七條 監禁ハ一月以上トシ監禁場ニ拘置シ定

役ニ服ス但シ情状ニ因リ定役ヲ免スルコトヲ得

監禁場ハ囚禁場内ニセテヲ置キ其ハ業務

ハ囚禁場職員之ヲ掌ル

第八條 追放ハ一年以上ノ期間一定區域外ニ放逐ス

第九條 過料ハ二十圓以上トス

過料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上

五年以下ノ期間セテ監禁場ニ留置ス

過料ノ言渡ヲ為ストキハ同時ニ前項ノ留

置期間ヲ定メ之ヲ言渡スルハシ

過料ニ付テハ本軍律ニ定ムルモノノ外刑

法ノ罰金ニ關スル規定ニ準據スルモノトス

第十條 監禁送放過料ヲ減輕スル場合ハ左記ニ

依ル

一 監禁ハ一月以下ニ降ス

二 追放ハ一年以下ニ降ス

三 過料ハ二十圓以下ニ降ス

第十一條 左ニ記載シタル物ハ没取スルコトヲ得

一 犯行ヲ組成シタル物

二 犯行ノ用ニ供シ又ハ供セシトシタル物

三 犯行ヨリ生シ又公之ニ因リ得タル物  
 四 犯行ノ報酬トシテ得タル物  
 五 前各號ニ記載シタル物ノ對價トシテ得タル物  
 前項ノ没取ハ其ノ物犯人以外ノ者ニ屬セ  
 サルトキニ限ル但シ犯行後犯人以外ノ者  
 情ヲ知リテ其ノ物ニ對スル權利ヲ取得シ  
 タル場合ハ此ノ限ニ非ス  
 第一項ニ記載シタル物ノ全部又ハ一部ヲ  
 没取スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ  
 追徴スルコトヲ得

第十三條 沒取ハ他ノ軍罰ニ附加シテモ科ス

第十三條 第十一條 第一項ニ記載シタル物ハ審判

ニ依リ沒取スル場合ヲ除ク外何人ノ所有タ

ルヲ問ハス檢察官ニ於テモラ處分スルコ

トヲ得

第十四條 三箇以上ノ犯行アルトキハ其ノ軍罰ヲ

併科シ又ハ一ノ重キ軍罰ヲ科スルコトヲ得

附 則

本軍律ハ發布ノ日ヨリモラ施行ス





佈告

左ニ揚グル行為ヲ為シタル者ハ日本軍軍律ニ照シ死又ハ重罰ニ處ス。但シ犯行發覺前自首シタル者ハ其ノ罰ヲ減輕又ハ免除セラルベシ。

一 日本軍ニ對スル敵對行為

二 日本軍ニ對スル間諜行為

三 日本軍所屬者ニ對シ危害ヲ加フル行為

四 日本軍ノ使用スル鐵道電信電話道路橋梁海路水路等ヲ損壞又ハ壅塞シ其ノ他交通通信運輸ヲ妨害スル行為

五 日本軍ノ陣營艦船兵器彈藥燃料糧秣被

- 服其ノ他軍用ニ供スル場所建造切其ノ他  
 ノ物ヲ損壞盜奪シ又ハ使用スルコト能  
 ハザルニ至ラシムル行爲
- 六日本軍ヲ害スル目的ヲ以テ鑛山炭坑工場  
 其ノ他事業場ヲ破壊又ハ燒燬スル行爲
- 七日本軍ニ関スル造言飛語
- 八日本軍ヲ害スル目的ヲ以テ毒物細菌ヲ使  
 用スル行爲
- 九日本軍ノ軍票ヲ偽造若クハ變造シ又ハ偽  
 造日本軍軍票ヲ行使シ其ノ他日本軍軍票ノ  
 流通ヲ妨害スル行爲

十火ヲ放ケ又ハ水道電燈等ヲ損壞スル行爲  
土前各號ノ外日本軍ノ安寧ヲ害シ又ハ軍事  
行動ヲ妨害スル行爲

昭和十六年十二月十九日

大日本軍司令官

寫

軍事秘密

富集法第三八號

第二十五軍軍律審判規則制定ノ件達

隸下及指揮下一般

第二十五軍軍律審判規則左ノ通定ム

昭和十六年十二月十九日

第二十五軍司令官山下奉文

## 第二十五軍軍律審判規則

第一條 第二十五軍軍律ニ違反シタル者ハ第二十五軍軍律會議（以下軍律會議ト略稱ス）ニ於テ審判ス

第二條 軍律會議ハ軍司令官ヲ以テ長官ト

第三條 審判官ハ陸軍ノ將校及法務官ヲ以テ充テ長官トシテ命ス

第四條 審判ハ審判官タル將校ニ名法務官

一名ヲ以テ構成シタル會議ニ於テ之ヲ為ス

第五條 審判廷ハ審判官檢察官及録事列席

シテ之ヲ閱ク

第六條本規則ニ定ナキ事項ハ陸軍軍法會議法中特設軍法會議ニ關スル規定ニ  
準據ス

寫

軍事必書

富集法第三五號

第二十五軍軍律會議開設ノ件達

寫

隸下及指揮下

本日第二十五軍ニ第二十五軍軍律會議  
ヲ開設シ其ノ通稱號ヲ富集法第八九九〇部  
隊軍律會議ト定ム

昭和十六年十二月十九日

第二十五軍司令官 山下奉文

寫

富集法第三七號

軍律實施ニ関スル件通牒

昭和十六年十二月十九日

富集團參謀長 鈴木宗作

隸下各部隊長宛

今般第二十五軍軍律會議ヲ開設セラレ第二十五軍軍律同審判規則ヲ制定施行セラレタルニ付之カ實施上左記事項ヲ貴隸下(指揮下)各部隊ニ徹底セシメ置カレ度依命通牒ス

左記

一 今次支那事變ニ於ケル在支各軍律會議ノ經驗ニ鑑ミ軍律違反事件ハ輕微ナルモ之ヲ除



キ務メテ證據ヲ蒐集ノ上軍律會議ニ送致スルコト

二 中隊長（之ニ準スル隊長ヲ含ム）以上ノ隊

長カ軍律違反事件ノ搜查權ヲ有スルコトハ

勿論ナルモ該搜查ハ相當困難ナル場合多キ

ヲ以テ成ルヘク最寄りノ憲兵隊ニ之カ搜查

ヲ委ヌヲ可トス

三 敵國人以外ノ者ニ對スル軍律違反事件ノ搜

査ニ際シテハ該事件カ將來外交問題トナリ

タル場合我軍ノ立場ヲ有利ナラシムル爲出

來得ル限り確實ナル證言及證據物件ヲ蒐集

0520

確保シ置クコト肝要ナリ